

| | |
|---|---------|
| 裾野麗峰山の会・山行報告書 | 文・写真 後藤 |
| 山行 NO. 1965 | |
| 日 時 2022年01月22日(土) 無風・快晴 | |
| 山 域 ハッ・蓼科山(2531m) | |
| コース 長泉 6:00ースズラン峠発 9:27ー標高 2110m 標識 10:38ー森林限界 11:51ー山頂 12:07 ー森林限界下(昼食) 12:26~42~スズラン峠 14:10ー「小斎の湯」ー「そばきり吉成(きっせい)」ー長泉 18:30(反省会・三楽) | |
| 標高差 上り・下り スズラン峠約 1720m~蓼科山 2531m=約 811m | |
| 藪漕度 なし | |
| 難易度 非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい | |
| <h2>アベックだらけの山だった</h2> | |
| 参加者 後藤、井上、勝又、加藤=4名 | |

厳冬期の蓼科山は、2014年以来。今年は雪が多そうなので楽しみ。蓼科山は、標高差が少なく、比較的短時間で上れるので、長泉6:00発とユックリだった。

ただ、遅い分、問題はあった。登山口のスズラン峠の駐車場が狭いのだ。案の定、峠に着いたら、峠下の下の駐車場も既に満杯。数にして5~60台だろうか。



路上駐車

結局、峠の道路駐車場の最後尾に置いた。一応、ここは駐車禁止の看板はない。年末の権現岳と違い、完璧に圧雪された「高速道路」を上る。天気は、このところの低温でなく、無風・快晴。梢に見事な蒼穹が広がる。早くも大汗を掻く。

登山者は、車の数に比例して多かった。ただ、何故か殆どが「アベック登山」で、若い男女が多い。昔では、考えられなかったが、これも世相かコロナ現象か。冬の蓼科山は初心者でも上れる山なので、一見、ビギナーっぽい方が多い。装備も最新のピカピカである。金もある。

スズラン峠からの蓼科山登山道は、ほぼ一直線に上る急道。一気に800m上るので、キツイはキツイが登山効率は良い。一時間半後、標高約2200mで展望が広がる。左に南ALPS、南八ッ、右は御嶽山、北ALPS、などなど。



人物・井上

若い井上とガンガン上る。勝又と加藤姉御はややゆっくりペース。姉御は、この所のオーバー・ペースで腰が痛いという。勝又は仕事疲れか。森林限界でも風が無かった。冬の蓼科は風の山だ。風が無いのは珍しい。

残りはあと100m程。ここまで若い衆を15名程抜かした。最近では、抜かれることが多いが、抜くのは珍しい。ま、初心者の人が多いからか。しかし、この人たちの荷物の少なさには驚く。まず、ピッケルは殆ど持っていない。我々のように、医薬品・ツェルト・ザイルなどの安全登山装

備はないだろう。先週も悪天候の天狗岳で高齢者パーティーが遭難し、年配女性が亡くなった。好条件の高山は全く問題ないが、ひとたび山が荒れば、人間は簡単にやられる。美味しい山ばかり上っていると危機感が希薄になる。

露岩帯を抜けて頂稜部に達した。この頃になると下山する方が多い。時間は、そろそろ12時になろうとしていた。山頂直下でヤッケを着た。



人物・井上

直下から2～3分で山頂。小さな祠と山頂標識。標識は外れて転がっていた。展望は素晴らしい。下部は風がなかったが、さすがに山頂はあった。

温かければ昼食と思ったが、長いは無用、井上の写真を撮ってすぐ下る。山の風は全くいただけない。下ってすぐ、姉御が上って来た。途中で車のカギを渡したので、てっきり下山したと思ったが頑張ってきた。

「山頂は？」と聞けば、何回も来ているので、不要というので下山。すぐその下に勝又もいた。勝又も山頂は不要。四名で下山。この場合、待つことも可能だが、30分は待つ。

風がある雪山・冬山で30分待たされるのは辛い。止まると5分でも厳しい。この場合、二人が山頂に行きたいと希望すれば、若い井上が付き添って上る。2月で後期高齢者の私は、風のない下で待機が理想。

しかし、二人とも冬の蓼科は上っているなので、よしとした。岩場から樹林帯に入る。風が無く温

かい。下から先ほど抜いた方々が、ゾロゾロ上って来る。山頂直下のこの辺りが、一番厳しい上り。

樹林帯で昼食。今回も腹が減った。ビア・サンドイッチ・ラーメンで腹を満たす。ただ、今回はビアが何となく合わなくスッキリしなかった。上りで飛ばし過ぎたか。

食事中、お揃いのシャツを着た「イノウエさん」が上って来た。聞けば、ご夫婦という。愛知から来たという。奥様が大分、辛そうだった。会の井上は岐阜出身。向うは「イノウエ」が多いのかねと盛り上がった。



昼食



イノウエご夫妻



やっちゃんいました！！

ちなみに過去の登山時間を調べた。

2012年2月・・・3時間30分（天気悪く初心者が一緒だった）

2014年1月・・・2時間40分（好天・4名）

2017年1月・・・悪天候で森林限界まで

2022年1月・・・2時間30分（好天・4名）

こうしてみると、いつもながら、年齢を重ねても条件が良ければ案外、時間は関係ないようだ。

最も、蓼科山は短い。3時間以上の山になれば状況は変わる。

下山は雪が多くてルンルン。夏はゴロタ石が多くて参ってしまう。ただ、下山は、上りで抜いた若い衆に抜かされる。若い衆は荷物が少ないこともあるが、下山は軽い荷物が楽だ。途中でラッセル遊びをしたり、雪穴にハマったりしたが無事下山。既に車は少なかった。

蓼科温泉「小斎の湯」(700-)で温まり、茅野「そばきり・吉成(きっせい)」でソバを食べて帰静した。この辺りのソバ屋は、コロナの影響か、開店時間が17:00~が多く、探すに苦労した。

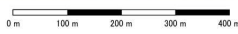
雪山イイ。楽しい。気持ち良い。今回もイイ山でした。





Japan Topo 10M Plus V3
 Copyright © 2014
 Garmin Corporation 1995-2014

2022/01/23 8:28:06



GARMIN

